

間もなく2011年が終わろうとしています。今年は本当にいろいろなことがありました。東日本大震災、原発事故、大型台風災害・・・まだ、復興の見通しも立たないでいます。

一方、タイで起きた大洪水が日本の企業にも大きな打撃を与えています。ギリシャの金融危機、イタリアの財政危機、一国だけにとどまらず、世界中が軒並み影響を受けるまさにグローバル時代を実感するこのごろです。

このような時代において、TPP協定参加問題も含め、日本は今後どう進んでいったらいいのか、国民一人一人が、自分の利害関係だけで考えるのではなく、国のかたちを見据えて真摯にこの問題に向き合っていきたいものです。

第 76 号会報をお送りします。読んで何かを感じていただければ幸いです。



目 次

- | | |
|-----------------|--------------|
| ・ 10 月例会報告 |P.2～5 |
| ・ 11 月 12 月例会報告 |P.6～9 |
| ・ 愛媛新聞切り抜き |P.10 |
| ・ 息吹 |P.11～12 |
| ・ 往復書簡 |P.13 |
| ・ 近頃思うこと |P.14～15 |
| ・ 震災を詠む |P.15～16 |
| ・ 日本語教師になる |P.17～19 |
| ・ 味噌づくりと理系のワタシ |P.19～20 |
| ・ 雑感 |P.20～26 |
| ・ お知らせ・編集後記 |P.26 |

小島の遺跡めぐりと島民対話

10月12日にくらしの学習会で今治の小島へ行ってみようということになった。小島は今治沖の来島海峡に浮かぶ小さな島で、日清戦争当時、日露戦争を予感した日本がロシア海軍の侵攻を防ぐために築いた海岸要塞があるという。12日前後はスケジュールが埋まっていたが、行きたい思いが強く、11日夜帰宅して、翌日Hさん宅に集合して、小島行きが実現した。

Hさん運転で高速道をひた走り、途中でお弁当を買って、波止浜港へと急ぐ。波止浜港に着くと、何万トンもある大きな船がいたるところに見え、造船の町「今治」を感じさせる光景だった。

船着場で小島に住んでいるというおじいさんとお嫁さんらしき人と知り合った。波止浜から小島までの渡し船の中でガイドブックには載っていない貴重なお話しが聞けた。昭和25年頃まで約200人居た島民が今では20人になり、平均年齢80歳で、子供の声が聞こえない島になってしまった。小島は小さい島だが、自然の形態の流れにそってエソ・イカ・タチなどが流れてくる良い島だ。夜は焚き寄せで魚がたくさん集まって漁師はうるおっていたので、大正に建てた家は大きい。自分は7人兄弟の長男で、小島に老妻と2人で住んでいる。野菜を作って、食べるだけの魚を釣って、年金で暮らしている。時々娘が手助けに来てくれる。船着場の若い人は娘さんだったのだ。

その他に600年前に建った村上水軍ゆかりの八千矛神社のことや、海岸沿いの石垣は明治30年頃に石灰と土だけで目地をつめたが、くろいがない。要塞は明治に30万の巨費を投じて築いた。目的はロシアの艦隊をここでくい止めるためだったが、使われることなく砲台跡などの遺跡が残っている。子供の頃、5人位で押して戦争ごっこをして遊んだ。要塞に使った赤レンガはドイツのハンブルグから送られてきた物だ。等々話された。

小島に着いたのでお名前をお聞きして別れた。昭和2年1月生まれ、84歳、山田隆博様という方で、矍鑠として博識なのに驚いた。ぶしつけな質問にも嫌な顔もせず答えてくださったことに感謝!! さあ小島上陸。トイレ休憩して、水分補給して、帽子・手袋・杖を持ち、2時間半ほどかけて地道を歩く予定。案内板によると『貴重な遺跡(芸予要塞跡)は明治中期、日露戦争時に築かれたもので28センチ砲のあった砲台跡、展望指令塔跡、赤レンガの地下兵舎跡、弾薬庫跡などが島の各所に点在していて、歴史的な近代化遺産として貴重な史跡で、遊歩道約1.8km 椿の並木道になっており、海峡の景色を眺めながら歴史散歩を楽しんでください』と書い

であった。S・Kさんが更に詳しいマップを作ってくださっていたので、迷うことなく興味津津進むことができた。各所に案内板があり、当時をしのいだ。観望の開けたところでお弁当を食べる。トンビがぐるりと輪をかいて飛んでいるのを見て、歌がとび出す。汗ばんだ肌に風が心地よい。小休憩の後、行動開始。椿の遊歩道には2,500本植えられているとか。花の頃来てみたいものである。要塞の赤レンガの部分は殆んど当時のまま残っていた。地下兵舎跡で、S・Kさんと2人で地下まで行ってみようとしたら、天井の角に今まで見たこともない足が長くてたくさんある虫が一ぱいおるので、サソリかもしれないと地下探検はやめた。それから急な石段を上り、指令塔跡の展望台へ。ここからの眺めは、大橋や行き交う船、海原と絶景だった。オーイと大声を出して船に向かって手をふった。海の男だった夫を瞬時思い出した。小休憩してから下り始める。

しばらくすると北部発電所跡に出る。草刈りをしていた人達がひと休みしているのに出くわし立話をする。ボランティアかなと思ったが、話しているうちに今治市が今治史談会を中心に清掃と草刈りを昭和48年から始めた。今治から来ている人達だった。この島はよその人は入れない、土地も売ってはいけないう約束ができているとか。閉鎖的な面もあるのだなと思った。

静かな余生を送っている島民にとって、朝早くから知らない顔が家の方を向いて釣っているのを見ると、気が落ち着かないのだろう。

さよならして、しばらく下ると、眼下は海で、港までの帰り道は来島海峡のうず潮を横目に海岸沿いに歩く。見事なうず潮で、誰かがフェリーに乗ってるみたいという。心洗われるようなひと時だった。S・Kさん曰く「今日は満月の大潮の日なのでうず潮がよく見えたのよ。」

うず潮をすぎると民家があり、Mさんがおじいさんの押し車があるというので表札を見ると、山田隆博とあり、水を一杯もらって、海を見ながら話す。昭和23年頃まで水は船で運んでいたという。子供のころは家の前の海でいつも遊んでいた。その頃はにぎやかだった等々。この旅の最初と最後にご縁があってお話しが聞けたことは大きな収穫だった。帰りの船に間に合うようにおいとまする。海水は青く澄み小魚が群れをなして泳いでいる。14:10小島を後にした。

あつという間の3時間の島めぐりだったが、中身の濃い良い旅ができた。

(2011年10月12日記 S・M)



10月の例会で訪れた今治沖の小島砲台跡見学後、小高い山道を海岸通りに向かって下って行くと海が盛り上がって見えます。海岸のすぐ側で『来島のうず潮』が渦を巻いている様子に、歩き疲れも吹き飛びしばらく見入ってしまいました。この日は大潮、帰りも10分程度の乗船ですが満潮真近の渦潮にもまれ大きく揺れ、少し緊張しました。

この小島から見て来島海峡大橋を挟んだ中渡島に、この海の難所を航海する船舶に潮流の向きを知らせる『中渡島潮流信号所』があります。100年以上海上交通の要衝を守ってきた国内最後の腕木式信号機が2012年3月で役目を終えるとの新聞記事を見つけたので紹介させていただきました（A. M）

■ 中渡島潮流信号所 今治市

来島海峡を通る船舶に潮流の向きを知らせてきた中渡島潮流信号所（今治市吉海町掠名）が、2012年3月で役目を終える。近代化を支えた海上交通の要衝の安全を100年以上守ってきた国内最後の腕木式信号機も姿を消す。

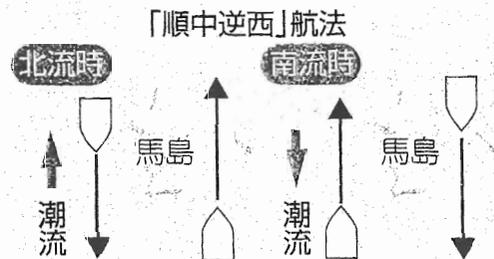
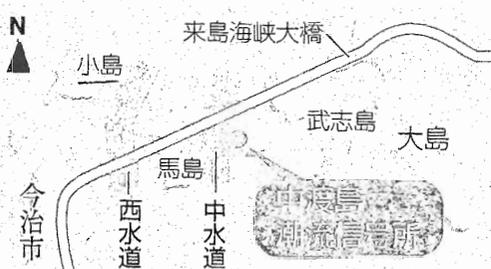
海上交通では右側通航が国際ルール。海上交通法で「順中逆西」航法が定められた来島海峡は、潮流の向きに応じて通る海域が変わる、世界で唯一の航路だ。

腕木式信号機は両腕先端にある丸と四角のプレートを交互に上下させ、潮流の向きを伝える。1900年

に設置された灯台が09年、潮流信号所になったのと同じに、灯火式の信号塔とともに設けられた。現在の信号機は90年登場の2代目。自動制御され、ディーゼル発電の電力で転潮のたびに動いている。

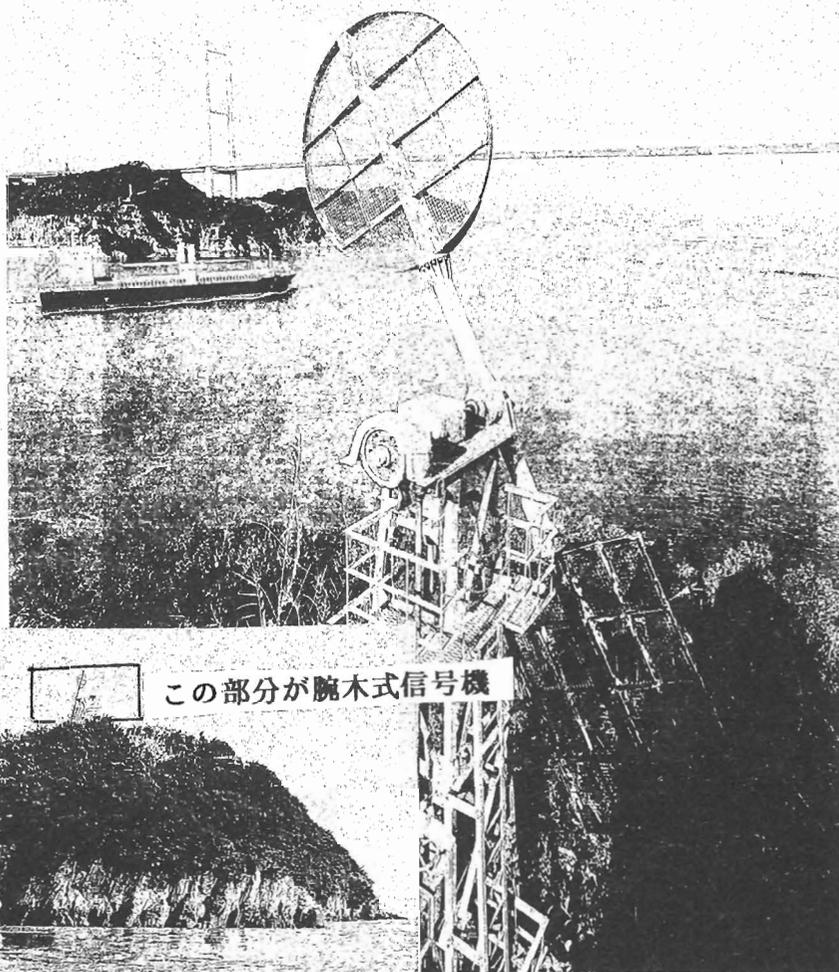
信号所には90年まで職員が常駐。明治期に建てられたれんが造りの官舎が今も残る。建物は信号所廃止に伴い取り壊される予定だが、夜間に明かりで潮流の流れを知らせる信号塔は再び、灯台としての役目を担い、これからも海の難所の安全を見守っていく。

（野田貴之）

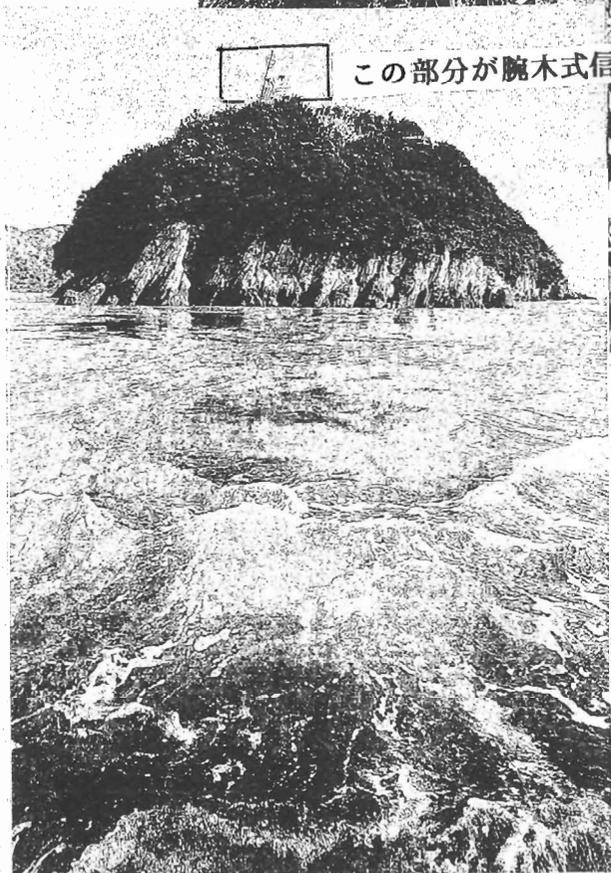


姿消す海峡の番人

現在稼働している日本唯一の腕木式信号機。鉄塔の高さは約8メートルと四角のプレートを交互に上下することで船舶に潮流の向きを知らせる。



この部分が腕木式信号機



中渡島が浮かぶ来島海峡は日本三大急潮の一つとして知られ、大潮時の潮流は10メートルに達する

2011年11月30日(水)

愛媛新聞

12月例会報告 三津の町並ぶらり歩き

12月3日(土) 前日からの雨模様を心配しつつ、メンバー5名、伊予鉄電車高浜線でのゴトゴト電車旅。車中、s.kさん作製のレジメで予習をしながら11時前に港山駅到着。潮の香りを微かに感じながら『三津の渡し』まではほんの5分、この道すがら近辺にも『洗心庵跡』(寛政7年小林一茶句会の地)『亀水塚』(芭蕉百回忌を記念し建立)など見所満載。

『三津の渡し』500年の歴史を誇る渡し船、三津と港山の間約80メートルを3分で結ぶ「松山市営」の渡船(無料)年間約4万人が利用。実際は1分程度かな? 風情を味わえた初渡し体験でした。

予約した食事処『鯛や』は11時30分からなのでフェリーのりば近辺を散策『久保田きせんのりばの碑』(子規は明治16年~28年の間に9回この地から上京した)『子規の句碑「十一人一人になりて秋の暮れ」』(明治28年10月18日子規が上京するのを極堂ら10人が見送りに来たが出港が遅れ見送人は終列車で帰った時の心境を詠んだ句で、翌早朝の船での上京が最後となった)この近辺も見所満載。

海風が強まってきたので『鯛や』へ。古民家(1929年築)をなんとか後世に残したいという家主の熱意により復活した建物。火災を予防するため銅版が貼られた壁が緑がかった古民家。ここは子規の兄弟子にあたる森連甫の家で、現在は6代目の直樹さん(66)が、6年前から鯛めしや『鯛や』と『三津浜資料館』を開いている。2009.12には登録有形文化財になった。文化財のお座敷での食事。火鉢がほっこりと暖かく、お膳には松山沖で水揚げされたとびっきり新鮮な鯛のお造り・お吸い物とお櫃には鯛飯(一人前一合用意され残った分はパック詰めにしてくれ包み布もステキです)小皿には煮カボチャ・ヒジキの梅にくのせ・小魚の酢漬け・地元のじゃこ天・はやとうりの漬物。どれも薄味でたべやすく美味しく頂きました。車で来なかったので日本酒をすこしずつ頂き、しぐれと果物のデザートでの締めでお腹一杯

お座敷のあちらこちらに昔懐かしい品々・店の名に因んだ鯛の置物が沢山飾られています。こんなに立派ではないけれど子供の頃行った母の実家もこんな雰囲気を感じる古い家だったなあなんて懐かしさを感じました。

お座敷から障子のガラス越しに見える石庭のど真ん中に大きな青桐。本来ちょっとおかしい話なのだから。その理由は、ずっと俳句と深く関わってきたおじいさんと俳人 河東碧梧桐との友情の証しだったとのこと。

【青桐】 中国では鳳凰が住む樹とされ、漢名 梧桐（ごとう）

二階の『三津浜資料館』へ。6代目直樹さんが退職後この家に帰ってきてから、蔵に納められていた品々を分類し、三部屋に展示したもので、自ら説明をしていただきました。

<一の間>江戸時代の三津は松山藩の海港で、商業の地として賑わった。廻船業で富を得た森家に関する資料。文久3年の道中手形・瀬戸内海の古地図 正月には松山城主と共に俳句を詠んだ（連句）句集。松山の正月の恒例行事として復活できないものでしょうか？

<二の間>俳人 森連甫（1838～1909）関連の資料。大原其戎の俳諧結社「明栄社」の一員で其戎門下で一番の逸材と呼ばれた。子規も三津浜に足を運び、大原其戎に俳句の手ほどきを受けている。天保15年に描かれた三津の渡しの絵・正岡子規、高浜虚子、種田山頭火、直筆の句・夏目漱石等の句が刷られた版画（京都の版元の仕事で鳥の色刷りが見事）版木（細工の細かさ と美しさは見事）この時代、旦那衆の寄り合いは、まず一句詠み合ってから始めるほど庶民の生活の中に浸透していたそうです。

<三の間>「坂の上の雲」関連の資料（連合艦隊などに寄付の応援をした返礼として贈られた秋山真之や秋山好古が描かれた絵画）昭和初期の品々（衣類・おもちゃなど）

洋間もあって、萬翠荘と同様の作りで床やドアーに施された細工など贅いを尽したお部屋でした。

食事と資料館の見学で2時間以上長居をしていました。直樹氏の楽しい解説を録音しておけばもっと詳しく報告ができたのにと後悔。説明不足で申し訳ありません。興味をもたれた方は、是非、予約をして訪れてみて下さい。

強風の中、古民家木村家へ。明治14年に建築、木村家は三津浜で10代に渡り回船問屋を営む商家。昭和40年頃まで住んでいましたが、5年前に取り壊されそうになった時、昔の大事なものがとぎれてしまうと、若いボランティアスタッフの方々が集い、この家を活用してカフェやイベントなどを展開し修理費用を捻出し維持しています。2009年には江戸から大正にかけて米や酒などの宣伝に使われた色鮮やかなチラシ「引札（ひきふだ）」約80枚が見つかり、それらも展示されています。二階からは港が望め、傷みもありますが贅を尽くした細工が施されていて、貴重な資料として残したいと頑張っているスタッフの姿はステキです。

一階でスタッフ手作り甘さ控え目濃厚チーズケーキセットを頂いた後、11月25日（金）pm8:00NHK『伊予路てくてく』で紹介されていた普段は見学できないお風呂も見せていただきました。大正3年、この家に女の子が生まれたのを機に内風呂を作ったそうで親心でしょう（当時は銭湯が普通）。天井には湯気抜きと明かり取りを兼ねた煙突があり、壁に貼られたコウモリの図柄のタイルは珍しいそうです。

本当は、12月～3月までは休業（寒さのため）の予定だったのですが、『伊予路てくてく』で紹介されたすぐ後の12月3日（土）のみオープンしたそうで、偶然とはいえ私たちはラッキーでした（事前にs.kさんがインターネットで調査済み）。『伊予路てくてく』のディレクターの男性もボランティア応援でお手伝いをしていました。残念ながら、sa.kさんはこの後の歩きは無理と判断。ここでお別れとなりました。

ここからは4人で目的の品を探しながら三津浜商店街歩き。この商店街の中にも、9月に古民家を利用しオープンした雑貨店があるのですが休業していました。こだわりのお醤油屋・和菓子屋も定休日で購入できず、じゃこ天の店は開いていて厚みのあるじゃこ天と竹輪を購入。留守番をしている夫への御土産ができました。三津駅でHさんとお別れ。心配した雨に降られる事もなく3人で帰路に就きました。 (A. M)

<お出かけ情報>

★鯛メシ専門「鯛や」

営業 11時半～3時

休業 火・水（祝日は営業）

1日30食限り¥2,100

ご予約承ります

愛媛県松山市三津1-3-21

電話 089-951-1061

tainotai@mountain.ocn.ne.jp

伊予灘の天然鯛しか使わない

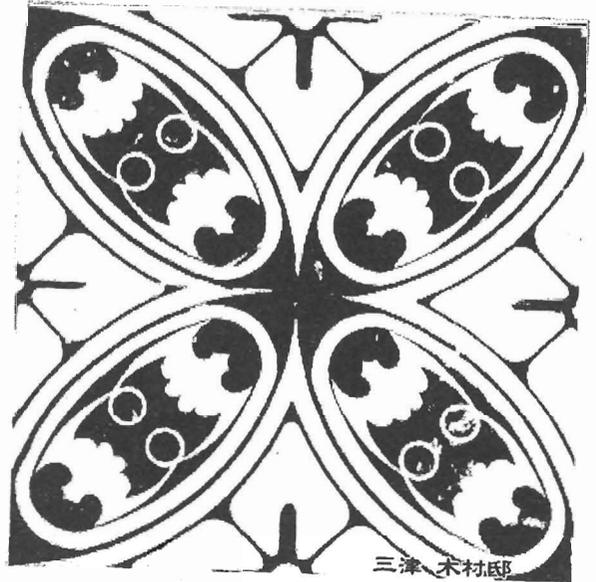


★古民家カフェ 木村邸

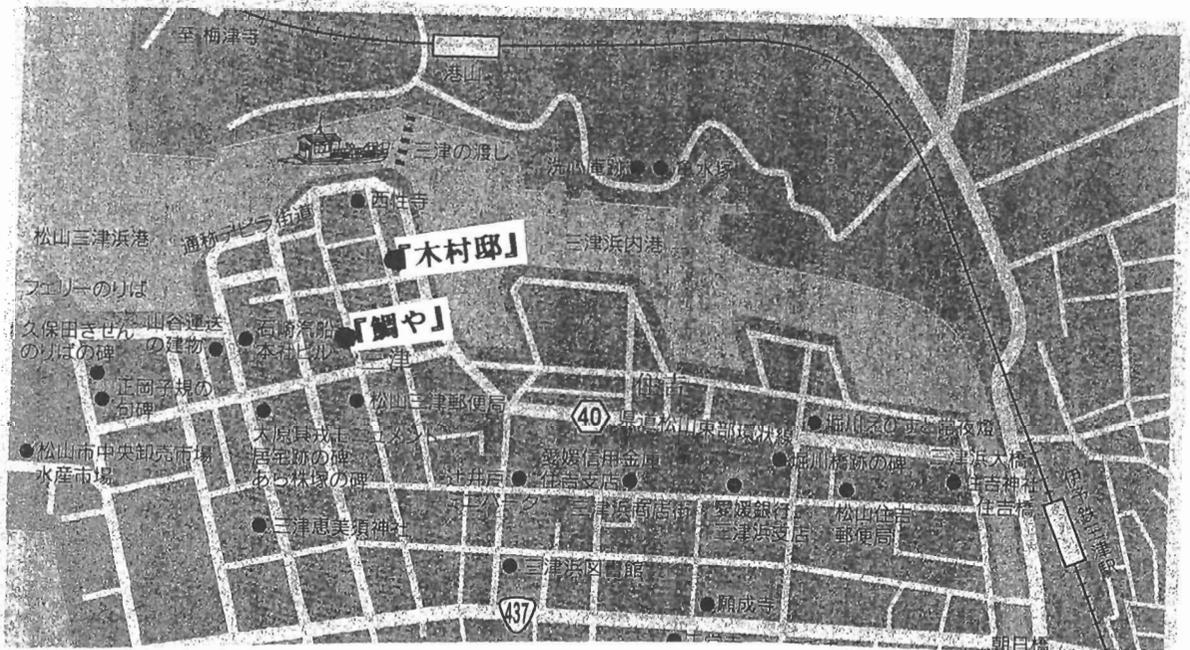
営業 毎月第2、4土曜日のみ

（12月～3月の間は休業）

メニュー ケーキセットなど



こうもりの図柄のタイル



東温市議長 辞任へ

定例会「混乱の責任取る」 最終日に

東温市議会は12月定例会2日目の9日、議員全員協議会を開き、議員選出監査委員の不在問題などで不信任決議を受けた大西勉議長が、定例会最終日の20日に議長職を辞任する

東温市議会は12月定例会2日目の9日、議員全員協議会を開き、議員選出監査委員の不在問題などで不信任決議を受けた大西勉議長が、定例会最終日の20日に議長職を辞任する

「混乱の責任取る」と話している。再開。市議会は定例会初日の6日、議案審議に入れないまま空転していたことをおわび申し上げましたと陳謝し、辞意を示した上で一閉会までの運営がスムーズにいくよう協力してほしい」と要請したという。

複数の市議による議長支持と不支持の両グループが「台風被害の復旧予算など重要な審議を優先すべきだ」との意見で一致。7、8の両日の調整で、最終日の議長辞任で折り合いが付いたとみられる。辞職願は20日付

で副議長に提出され、同日中に議長選が行われる予定。

市議会では、監査委員の不在問題を契機に11月の臨時議会で大西議長への不信任決議が可決。決議に賛成した議員らが「不信任とされた議長の下では審議に参加できない」と主張していた。

(中藤玲)

12月13日東温市12月定例会
一般質問で佐伯正夫氏は議員選出の監査委員が1年間不在となっている問題について高須賀功市長の見解をただした。高須賀市長は「誠に遺憾に感じている。本会議最終日(20日)までに(議会から)推薦があれば議案として上程したい」と述べた。

東温市議会 議長辞任求め空転

定例会初日

東温市議会は12月定例会初日の6日、議員選出監査委員の不在問題などで不信任決議を受けた大西勉議長への議員らの反発から本会議冒頭、議員動議で休憩となり、議案審議が

行われなまま同日の日程を打ち切った。9日に再開する予定。本会議で会期を20日の15日間と決めた直後、酒井克雄議員が

以後、議員全員協議会が断続的に開かれ、議長の辞任を求める議員と議長らが話し合ったが結論が出なかった。

開会から約6時間半

後の午後4時ごろ、議会議員18人の半数以上の参加が見込めないとして大西議長が1人で延会を宣言した。

不信任決議では(議

議長は)議員選出委員を市長に推薦する立場にありながら、議会内の調整をせず事実上放棄してきたとされた。大西議長は全員協議会で「理事者らと調整を行ってきた内容が間違っている」と反論した。

一方、昨年11月に否決された監査委員候補

者を一貫して推薦している議長に対し、不信任決議に賛成した9人を中心に「候補者の変更は議会運営上必要」「不信任決議という本会議の決定が無視され、これは議会の意味がなくなっている」と反論した。

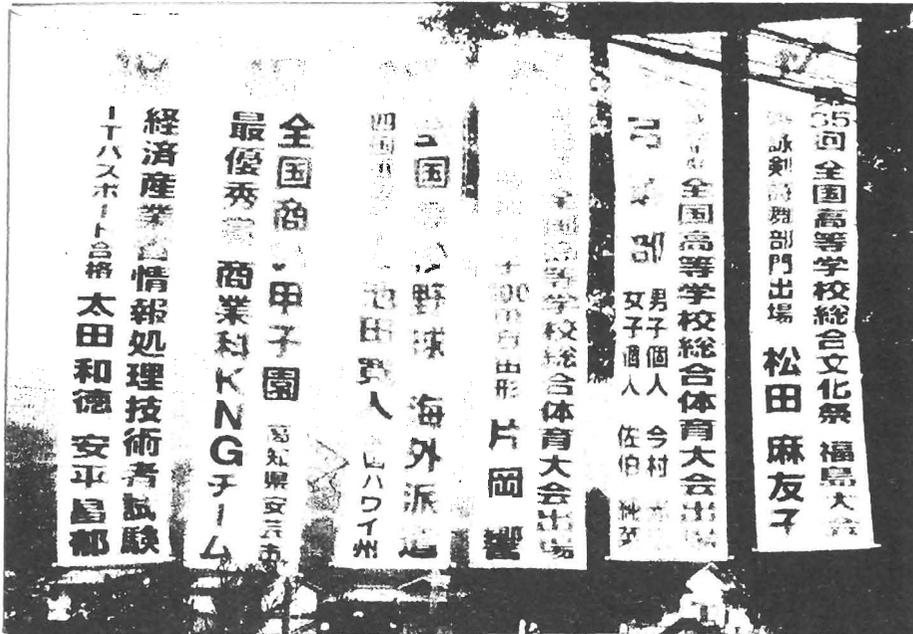
効力を発揮しない」などと辞任を迫った。

不信任決議案を提出した渡部伸二議員は「議長の下では審議に参加できず、本会議は成立しない。議会正常化のために辞任すべきだ」と話した。大西議長は「住民のために審議を優先していただき」と述べた。

(中藤玲)

息 吹

今年も東温高校正門前には、各種競技会で優秀な成績を残した生徒個人やチームを称える以下のような垂れ幕が下がっている。目にする度に各方面で努力している高校生の姿を思い頼もしく感じていた。



10/23 堀之内の松山公園で開催していた「えひめ・まつやま産業まつり」で、上記東温高校の商業科KNG(クヌギ)チームに出会った。

数人の男女高校生が緑のエプロンをつけて「東温高校くぬぎ林の恵み・東温石けん」を売っていた。泡立てネットと共に、可愛く包装した一個 10g300 円の石鹸。説明書には企画発売元:東温高校、製造販売元:遠赤青汁(株)。《石けんには学校のくぬぎの葉の粉末が5%入っておりモチモチです。海塩が10%配合されているのでミネラルを肌に供給します。合成着色料、保存料を一切使用していません》とあった。

使ってみた。葉っぱの濃い香りやし泡がよくでる。

東温高校の敷地内の一角はくぬぎ林になっており、その中に遺跡金比羅街道の石碑がある。校内のテニスコートや野球場には元気な声が響き、夏にはその木陰で汗を拭く姿を、秋には高校生がコート内や線路側の道路の落葉をはき集めている姿をみていた。私は帽

子の着いたドングリを拾ってきては家の中に秋の訪れを運んできていたし、冬の早朝には、霜柱も度々見に行つてはその美しさにみとれたこともあった。

東温高校生が全国商い甲子園最優秀賞を受賞したこの快挙がテレビ・新聞で報道された時から「東温石けん」が気になっていた。

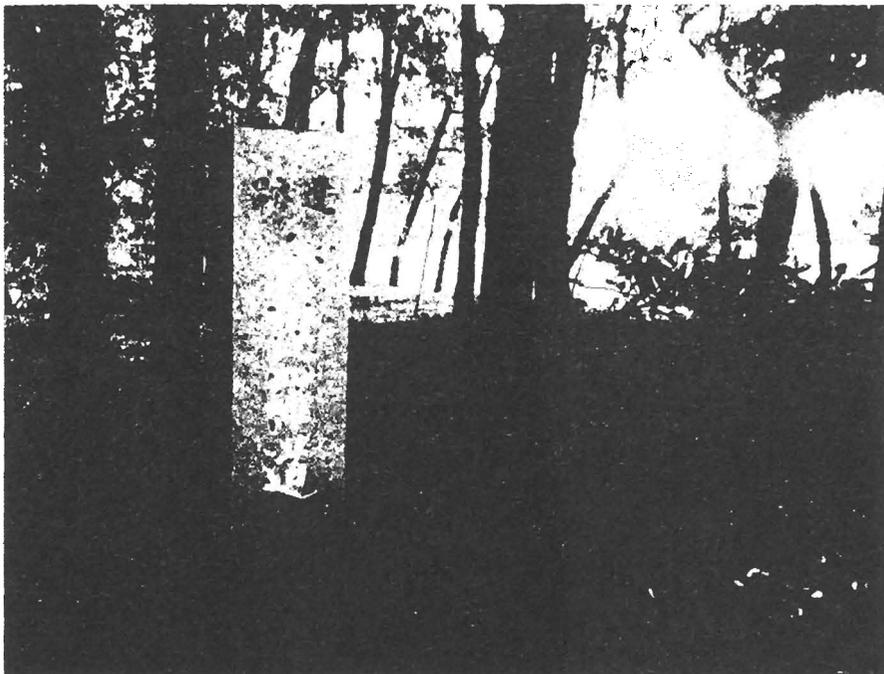
三菱グループの創始者岩崎弥太郎の生誕地である高知県安芸市で始まった全国商い甲子園。第4回目の今年「岩崎弥太郎賞(優勝)」と接客力や独創性が高いと「審査員長特別賞」を受賞したという東温高校商業科生の快挙にエールを送りたい。

高校生が日本を元気にする。

今、甲子園と名のつく高校生の文化系の競技会がいくつもある。愛媛では、俳句甲子園、書道パフォーマンス甲子園などがあり、高知ではマンガ甲子園がある。仲間と共に青春時代に情熱を持って関わったこと、努力した経験が、社会に飛び出していく時、大きな自信になることと思う。

あのクヌギ林にはそんな力が漲っている。

(S. K)



往復書簡

(現在高知在住のくらしの学習会初代代表丸井さんとのメールのやりとり)

→最新情報を入手しましたので、お送りします。ZDF(ドイツのテレビ局)のルポで日本語字幕付きです。今の福島の労働者の実態です。日本のジャーナリストは福島現地にはほとんど近寄らないという話も聞いています。

http://www.youtube.com/all_comments?v=aAE-QBmC1VA

←ご無沙汰しております。

先日はドイツZDFの報道情報ありがとうございました。

くらしの学習会のメールメンバーに回しました。何人かは見てくれたようです。今後ともよろしくお祈りします。

→いつも井戸端だよりをありがとうございます。毎回何か書いてお送りしようと思いながら、いつもバタバタしていて、送る文章が書けません。今回の情報は、私の関係者に3月11日以来、3回ほどいろんな情報を送っていたのですが、今回さらに範囲を拡大して、そちらにも送ってみました。また何か情報が手に入り次第お送りします。

8月にドイツに行った報告も「土といのち」のブログに載っています。よかったら、そちらのニュースに転載してくださっても結構です。……(以下転載します)

<http://blog.goo.ne.jp/tuchitoinochi>

10月10日の分です。

「半農半電！エネルギー農家！」 2011-10-10 18:52:45 | 脱原発

9月4日に予定されていたのですが台風の影響で10月9日に延期となった「原発と放射能の学習会」の報告です。参加者は8名でした。

講師は「土といのち」の運営委員長でもある丸井美恵子さん。

8月の丸井さんのドイツ訪問の報告に驚きました。この風景は、車窓から丸井さんが目にした農村の太陽光発電装置。農村のいたるところで見られるそうです。

農村における太陽光発電の普及の背景には国の政策があるようです。

農家には「半農半電」のところもふえているようです。牧草を発酵させ、そのガスで発電・給湯をおこなう「エネルギー農家」もあるとのことでした。

丸井さんの報告をうけながら、なぜドイツはここまで脱原発がすすんでいるのか、とかなぜニホンではここまで脱原発がおくれているのか、とかそのニホンで私たちは何をすればいいのか、とかを話し合いました。運営委員Hでした。……(転載終わり)

近頃思うこと

新聞の切り抜きを始めて1年が過ぎた。午前中に新聞を読み、午後は関心のある記事を切り抜き、ちょっとした感想を書いておく。

人間は生まれた時から、育ちも環境も違うので、関心も違う。私は地域の事、環境の事で政治にはあまり目を通さなかった。それが、3月11日から読み方が変わった。

震災への政府の決定力の遅さ、原発への過信、私達も遠くで起こったことだと知らぬ顔は出来ません。伊方が目の前だからです。伊方の元町長中元清吉さんの考えを要約してみます。

「伊方の原発は、あまりに町財政が厳しかったので誘致運動をして立地した。だから、われわれは運命共同体と思っている。55年の町制発足直後から財政赤字再建団体となり、66年に黒字化したが、厳しい財政は続いていた。」

中元さんは、「都市部は原発がなくてもやれるからいらん、地方は原発でも誘致せなんだらやっていけん」と説明している。当時は伊方町の主産業は農漁業で急傾斜地畑で麦やサツマイモを育てた。都市部が高度経済成長で活気づく中、収入も人口も増えず取り残される一方だった。

福島第一原発事故後に強まる「生活水準を落としても原子力発電をやめる」との論調に、中元さんは「これだけ物質文明が発達した社会で恩恵を受けずに幸せを確保することは考えられんじやろう」と疑問を投げ掛ける。

原発が町をどう変えたか、中元さんは、「もし福島のような事故が起これば、失敗と言わざるを得ないが、よかれと思って誘致しその恩恵で、インフラ整備や雇用創出を進めてきた」と指摘する。農漁業などの基盤整備も財政力があってこそ出来ることで「発電所がなければ、八幡浜市周辺地域もさらに過疎化したはず」と総括する一方、「発電所の城下町」となったが故に農漁業を離れた住民が多いことも気にかかると言う。

これだけ読むと貧しさ故の誘致で、経済力のあるところはいらない施設と読める。現に、日本全体を見ても、海岸辺や田舎町の貧しい所に原発は立ち並び、東京や大阪等の都市部にはないのが現状である。政府も電力会社もデメリットについて説明したのだろうか。原発の電力は主に東京都市で使われたのに。そんな事を考えている時、「編集局社会部」から「過信」という記事が載った。

「やれるものなら やってみよ」と数年前から原発廃止について尋ねた記者に、四国電力幹部は言い放ったという。もしも原発が自分の隣にあったらと直接、聞いてみたところ「問題ない」と

の答えだった。四国電力は供給電力の4割を伊方原発が担うという自負。加えて幾重にも張り巡らされた安全策で重大事故は起こり得ないという過信だったことが福島で分かったこと。

福島の災害以来、風評被害にあえぐ現地のルポ、原発に依存しすぎたと語る地元町長、愛媛に避難して来た人達の共通する声は、突然の災禍を「考えてもみなかった」というものだ。「災厄を防ぐための作業は、おごりをそぎ落とすことから始まる」と記している。

テレビ新聞で福島の経過は知ることが出来るが、想定外だったという言葉におきかえるだけで、苦しんでいる人々の立場に立つ様な言動が出来ていない。

世界でも有識者が集まる東京大学等の研究者が、ただ電力の低コスト、自然エネルギーより簡単ということで増え続けた原発、狭い日本に次の事故があればと想像すると身震いする。安くなるはずだった電気代は、補償の額とすさまじい爆発の後始末にかかる費用を思うと莫大なお金になると思う。

30年も故郷に住めない住民の方々の怒りが聞こえて来る。研究者達は、放射能が0になる研究をし、放射線を浴びた人々に、深く謝罪をして欲しいものである。

(Sa・K)

投稿

震災を詠む

道満 光子

3月11日、この日以来幾多の句歌が詠まれ、今後も数多の人々が、その言い難い思いを、詩歌に認めてゆくことでしょう。早9ヶ月が過ぎました。その間に目にとまった短歌を綴ってみます。

先づ北海道のご年輩の御方の一首

瓦礫あり屋根あり船体の瓦礫あり瓦礫の下になほいのらあり

ある若者達のイベントのステージに、大きくこう書かれていた。「津波のばか」と。私のひとりの友は こうぶつつけている。

許されぬ悪戯の限り大津波処する刑罰盡きがは惜し

あまりの悲痛な惨状と嘆きが、至るところで詠まれ、記録されてゆく中で、一少女のこんな言葉を聞いてください。

失いしもの多くとも繰り返す少女の言葉海は悪くない

ここで敢えて訴えたい許されざる原発事故を。子規顕影全国短歌大会での特選歌を一首。

原子炉の終るともなき崩壊に水棺の文字おぞましきかな

フクシマと書かれるこの片仮名文字の表すもの。「ヒロシマを繰り返すな」と幾度叫ばれたことか。ことに今日本人はすべてフクシマを、もう二度と惹き起してはならないのです。

伊方原発では、私の一首ですが

毎月の十一日に産りこむ原発ゲート前忘れざる日ぞ

語り尽くせぬ思いと秀歌が幾多もあります。長谷川權の「震災歌集」より幾首かを、抜粋致します。

酒飲みて眠りてあした目が覚めて夢だったかといへたらよきに

日本列島あはれ余震にゆらぐたび幾千万の喪の灯さゆらぐ

たれもかも津波のあととオロオロと歩くほかなき宮沢賢治

瀧桜幾万のつぼみのその一つ今朝ひらきぬと吹く風のいふ

なおスペースあれば最後に入れたい。

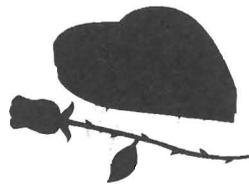
はや月日めぐりて被災地の卒哭忌未だ不明者七千余り（多分八月頃の作と思われる。）

合掌

各短歌の作者名をお知りになりたい方は、道満にお問合わせください。

TEL・FAX 089-966-1589

(道満 光子)



日本語教師になる！

日本語ボランティア講座が開催されると知り、講座に参加してから3年と8ヶ月が過ぎた。当初は、物珍しさからの興味が湧き、毎週の講座が楽しみになった。外国人に、日本語を日本語で教えるということに、その国の言葉で教えるなら理解もできるが、ちんぷんかんぷんだったように思う。それでも、出会う人の魅力に惹きつけられて、そこで出会った仲間と一緒に、講座は40回を超えて参加した。その間に、別の日本語の会の講座参加やボランティアで活動をしている団体との出会いもあった。外国人に日本語を教える活動に参加することになるという予想も心構えもなかったのだが、講座受講中に会った留学生と、彼らが知っている日本語を使っての会話は実に楽しかった。彼らが話す何気ない日本語には、何か、なんともいえない新鮮な気持ちにさせられた。

しかし、どうやって、日本語を教えるのかは、最初の講座ではわからなかった。担当の先生に聞いてみたが、先生は、ここは日本語教師を育てる目的はなく、あくまでも、ボランティアを育てたいとおっしゃられた。でも、私は、日本語をどうやって教えるのかに興味が移っていた。サポートの活動も楽しかったのだが、もう少し、上手な話し相手にもなりたかった。そのためには、やはり、外国語としての日本語を理解する必要があると思った。

そこで、講座と一緒に参加した仲間と一緒に、ボランティア団体に入会することにした。入会すれば、日本語の勉強会に参加し、そうするうちに、何となく、日本語のことがわかるようになるだろうと思っていた。ところが、外国語としての日本語は、予想以上に難しかった。初級の勉強会に参加するところから始めたのだが、未だに、少しも安堵感がわからない。色々考えれば考える程、先に続くものがあり、終りが無い。

ボランティア団体ではあっても、会員誰もが直ぐに、日本語を教えられないのではない。賛助会員という立場でスタートし、一年くらいで、賛助会員から活動会員になるための研修のようなものがあり、それに合格してから個人レッスンの担当ができることになっている。個人レッスンを担当してから、時期をおいて、又、研修を受けて、それに合格すると、クラスレッスンの担当ができる。ここまでで、3年と少しかかる。

私は、この夏、研修を終えて、やっと、1コマ担当になった。初級の最初のクラスで、日本へ来たばかりの人、20人に日本語を1コマだけ教えた。20人という人数は初級クラスでは多過ぎるが、申し込み人数が多く、レベル別なので仕方がない。語学のクラスなので、本当はもう少し、少ないほうが理解もいいのだそうだが。

夏の後に、イブニング講座があり、16回の講座のうち、2コマ担当した。顔ぶれの半分は、夏に続いての参加だったので、約1ヶ月ぶりの再会は嬉しいものだった。その中に、17才の大学2年生がいた。国を離れ、きっと頭がいいのだろうが、飛び級での留学生だ。彼は母語が英語ではなかったが、実に流暢に英語を話した。彼の国は先進国ではない。愛媛大学が、自分を選んだので、日本に来られたと言っていた。彼の国は、地震が毎日あるそうで、自分の専門は地学だとも話した。彼の国には、地震の専門の研究者があまりいないと聞いたので、将来、国のリーダーになる人かもしれないと思った。飛び級制度を利用できる頭の良さは素晴らしかった。

又、学習者の中には、習った事が全く頭に残らない人もいた。語学学習は、年齢も関係することもわかった。しかし、それでも、休まないで学習を続けていると、あれほど、わかりにくい発音だったのが、いつの間にか、自然なアクセントになっていたり、ひらがなを間違えないで読めたりできるようになるから不思議だ。少しでも、解かったり出来たりする学習者を見るのは、実に、楽しい。

私が参加している団体は、ボランティア団体としての活動と愛媛県から依頼される外国人に対する日本語指導講座、研修生の日本語指導講座、日本語指導支援員として小学校や中学校へ行く仕事、高等学校や専門学校や大学で日本語の専門家として仕事をする等、色々な形で、外国人に日本語を教えている人の組織だ。そういうこともあってか、会員の日本語への取り組み方は実に様々だ。会員の経歴も様々。定年後に参加した人もいれば、30才代の人もある。会社員で、土曜日の勉強会に参加している人もいる。共通なのは、日本語を日本語で教える技術に魅力を感じているということだと思う。

先日、研修生を教えている講座の見学をした。学習内容は、仕事先で彼らが困らないように、仕事をするために必要な日本語を学習する。中には、全く、学習をする習慣がなかった人もいたので、自国でも日本語を学習してくるらしいが、なかなか、身につかない。彼らの不安感は量り知れないなあと思ったが、真剣に取り組む姿に、少しは安心もした。教師側にも苦労がある。ベテラン教師でも、講座が違くと、同じ初級項目なのだが、教材を変えないと実践的でなくなるので、配慮が必要になる。その都度、講座によって、学習者によって、教案を考えて取り組まなければならない。それを長く続けている先輩には頭が下がる。どれだけの時間を費やしてきたのだろうか。

プライベートでの学習者との出会いも楽しい。一年以上担当すると、日常会話には困

らなくなる学習者も育つ。今までで、一番長く一緒に勉強した学習者が、最近、帰国後は日本語教師になると言っていたと聞いた。私とは友達のような関係だったので、彼女が、漢字は勉強しませんと言うと、それ以上の指導をしなかったのだが、最近、試験に合格したいので漢字も勉強していると聞いた。嬉しいことだ。探せば、無料で、あるいは、無料に近い金額で日本語を勉強するシステムが松山にはある。外国人は、実に、恵まれていると思う。しかし、努力をしないと、自分のものにはならない。外国語習得はあきらめないで、続けることが一番だと思った。私の実っていない英語習得もそうなのだが、あきらめないで続けている学習者を見習いたい。

そして……、私は、来年、学校で、日本語を教えることになった。日本語支援員になる。取り出し授業で、一日、二時間。少しでも、日本語を習得を支援することで、今後の生活を支える事ができればなあと思っている。学習者との出会いに、そして、こういう機会を頂けたことに、感謝！（M・T）

味噌づくりと理系のワタシ

先日、今治で「味噌づくり講座」が開催されました。講師の T さんは関東出身。関東の味噌づくりだということで、群馬で育った私はワクワクして出かけました。

とはいえ、2歳の息子を同伴しての参加です。果たして作業ができるのかしらと不安もありました。案の定、前半はほとんど聞くことができず、母の私はちょっぴりイライラ… けれども、資料をしまつてテーブルにボウルが登場し、味噌づくりが始まると息子の目が輝いてきました。

まず、米麴をポロポロほぐして塩を混ぜました。そこに煮て潰した大豆を加えてしっかりと混ぜ合わせ、さらに大豆の煮汁を加え、団子ができるくらいのやわらかさに調整しました。この感じ、泥んこ遊びに似ていて息子はかなり熱中。ボウルの外に麴や塩や大豆が飛び散っても、本人は作業をやりとげた達成感で大満足の表情でした。

その際、T さんが「今日は皆さんが同じ材料でつくっていますが、それぞれ違う味に仕上がるのですよ」と嬉しそうに話してくださいました。そして「それは皆さんの手の…」と続けられたので、私は頭の中で「あー常在菌が違うということね」とひらめいて納得していました。

ところが、Tさんは「…温もりが違うからなんですなー」とおっしゃるではありませんか！

味噌づくりの最中に「常在菌」を思うのと「温もり」を思うのでは、なんだかとっても違いがありそうです…

そういえば学生時代には、動きの悪いパソコンのマウスを「摩擦力最大！」と言いながら滑らせようとする同級生に、「摩擦が最大になったら滑らないんじゃない？」とツツコミを入れたところ、「これだから理系女子は！」と素っ気なく言い捨てられたこともありました。紅葉を眺めながら葉の中での化学反応を考えたり、夜景を見ながら発電を思ったり、我が子の行動を生物学的あるいは行動学的に解釈して子育てしようとしたりするところも理系的かもしれせん。

そんなわけで、普段は「常在菌」よりは「温もり」派で生きたいとイメージするのですが、思考を変えるのはなかなか難しいものです。

さて、味噌づくりですが、講座で習った通りに自宅でも仕込みました。8歳と2歳の息子たちとの作業は終了後の掃除が悩ましいもののなんとも楽しく、母子の良い時間になりそうです。とはいえ、やはり、「発酵に必要な条件は…」などと科学実験的に考えてしまう自分に苦笑しながらの作業でした。(T.S.)

雑 感

あの震災の日から9ヶ月余、復興どころか復旧さえ儘ならないまま、年の瀬を迎えています。

甚大な事故を起こした福島第一原発は、12月16日夕方、収束宣言が出されましたが、拙速すぎる、パフォーマンスだ、との懐疑的な意見が多く、世界各国からも不信の声があがっています。住民が安心して帰宅できる日は未だ遠く、現場で作業している方の過酷な激務はこれからも続くのでしょう。そんな中、18日の朝刊一面に、東電は電源喪失時に非常用復水器の弁が閉まるという冷却構造を知らなかったという記事が大きく掲載されました。信じられないことです。その夜のNHKスペシャル“マルチダウン”でも詳しく放送されました。震えが止まりませんでした。

親を、友人を、生活の場を、奪われた子供たちが重過ぎるものを抱えながら、あかるく振る舞う様子を見るにつけ、大人の一人として申し訳なく、胸が詰まります。周りを気遣い、泣くことも甘えることも自分の胸に閉じ込めて、痛々しい程に頑張っています。彼らの周りの大人達が、希望を持って前に進む事が出来る状態が来るまで、彼らの我慢は続くのです。

震災後9ヶ月近くも経って、漸く成立したのが「復興財源法」と、「復興庁設立法」です。復興庁は来年3月に発足の見通しとのことですし、財源は、全ての国民への増税、手当・控除削減と、宝くじ、復興債、国有財産の売却によって捻出するとの考えの様です。遅過ぎますし、世界の赤字大国が、復興債発行によってこれ以上の借金を増やすことには納得できません。

復興には、緊急に多額の財源が必要です。思いきって、時限立法ででも、大企業の内部留保金、億を超える場合の個人金融資産元本に対して数パーセントの課税を考えてはどうでしょう。それでどの程度の財源が捻出されるのか、私には全く見当もつかないのですが、租税には公共サービスの提供と共に、資産の再分配という意味が有ることを考えると、優先順位として、困窮度の低い所から先ずは徴収すべきと考えます。

議員や公務員の定数削減を望む声があります。当然です。しかし、現場の公務員に関しては、きめ細かいサービスを実施するためにどの程度の人数が必要なのか、慎重に考える必要が有るでしょう。もっと多くの人員が必要な所も有る筈です。定数削減と共に、歳費や報酬、特典が妥当なものであるか否かを精査すべきでしょう。

財政困難を理由に増税を俎上に上げる一方、自動車の重量税の軽減やエコカー減税の3年間延長、エコカー補助金の復活、省エネ住宅のローン減税、省エネ住宅を取得する際の贈与税の軽減などを盛り込んだ2012年度税制改正大綱がまとまりました。住宅を取得する際、親族等から贈与を受けることが出来る幸せは、本来の税額を納めることによって幸せのお裾分けをすべきですし、エコカー減税も、補助金も、省エネ住宅ローン減税も、期間限定では購買欲を煽るバーゲンセールの様で、本来の省エネの精神にはそぐわないと思えてなりません。

社会保障と税の一体改革と銘打った消費税の引き上げの素案もまとまりました。消費税を今の様に一律のままで引き上げると、この不況下では、国民生活にとって大きな痛手となるでしょう。

また、年金に関しては、現在の様な保険料徴収は廃止にすべきとも考えます。若い時、保険料が払えなかった人(払わなかった人は論外ですが)が、老後、無年金になるのは厳しすぎます。

また、複雑すぎる年金の種類、加入期間の算定は間違いを生むもとです。

私が松山で経験したことですが、たまたま古い知人の年金手帳を見つけました。知人の数年分の保険料納付の記録でした。現在の住所が判らないため、年金事務所に持参しました。事務所の職員はその古い手帳を一瞥すると、書類を照合することも、コンピューターで検索するこ

ともなく、直ちに、「この方は受給開始年齢に達していますから、年金は支払われています。」との回答でした。受給開始年齢を過ぎていることは見れば解りますが、手帳が私の手許にある以上、知人の年金額は過小評価されているかもしれないので、調べる方法を教えてくれる様、重ねて頼みました。しかし、職員の答えは、「大丈夫です。正しい額が支払われています。」というものでした。大勢の方が待っておられる中、私一人が長居するのも躊躇われて、事務所を後にしましたが、釈然としません。松山の事務所の職員は、何も調べなくても総ての国民の情報を把握できる超能力者なのでしょうか。その後も、年金手帳に記載されている住所の年金事務所等に電話してみましたが、現住所の事務所に問い合わせる様に、との返事です。現在の住所が判らないから問い合わせたのです。

提供された情報に真摯に向き合おうとしない態度は、名称が変わっても中身は旧態依然としか言いようがありません。

年金は、税金で賄うべきです。その代り、高齢者とはいえ、所得は低くても、一定の金融資産を持っている人には年金を支給する必要は無いとも考えます。現在の様な、働いている時の所得や加入年数に応じて年金の多寡が左右されるのは、社会保障とも、福祉とも馴染まないやり方だと言えるでしょう。このようなやり方は、民間の金融機関に任せておけば良いことです。介護保険もしかりです。

消費税も、社会に必要不可欠で社会に貢献するものに関しては恒久的に税率を低く、不要不急の嗜好的なものには高い税率を課すべきだと思うのです。

その為には、私達の国をどのような国にしたいのか、真剣に論議すべきでしょう。そうすれば、自ずと不要なものが見えてくると思います。

考えても、考えても、原発は不要です。と言うより、存在してはならないものと思えてなりません。何時かは必ず、老朽化し最終処分しなければならないことは明らかです。それなのに、廃炉にするにも何十年も掛かるうえ、私達の国には、最終処分の方法も場所も未だに解決できていないのです。これは日本に限ったことではありません。最終処分場を決めたのは、フィンランドだけです。その最終処分場に現在考え得る英知の全てを投入した方法で地下深く埋蔵したとしても、それが無害な状態になるのに何万年も掛かると言います。その間、この埋蔵物が安全に埋蔵され続けることが出来るのか懸念する人もいます。

この狭い日本に、54 基もの原発が既に存在してしまっている現実を、もっともっと重く受け止めるべきです。

今回の事故に因って、汚染された瓦礫や枯葉、除染によって集められた土壌や水さえ処分

出来ないことを目の当たりにしている今、原発を再稼働させるのか、廃炉にし、何とか最終処分の方法を探るのか。答えは明らかです。今回の事故で、海には既に、過去世界最悪とされる、英国の核燃料再処理工場からの海洋汚染に近いストロンチウムが流出してしまったと言います。

それでも、停止している原発の再稼働が儘ならないことが CO₂ 排出量の増加を招いていると言及する人たちが居ることは非常に残念です。

千葉県や、茨城県で考えられない位高い値の放射線を計測する地域が問題になっています。福島第一原発から遠く離れているのに、です。茨城県の場合は周りが総てコンクリートによって舗装された所で尚且つ、市民の憩いの場としての人工の川(コンクリートの三面張り)が作られていたため、土壤に沁みこむことなくその人工河川に溜まった為、と言われていています。千葉県の場合は、超高温で燃やすごみ焼却場でゴミが極限まで圧縮されたため焼却灰に放射能が濃縮されたのだと言います。ダイオキシン騒動の時、高温で焼却すればダイオキシン発生を抑えることが出来るとの説明を受けた記憶が有ります。市民の憩いの為、ダイオキシンを発生させない為、夫々に、良かれと思ってやったことの結果です。放射能の“都市型濃縮”なのだそうです。ここ最近、“都市型”という言葉は何度となく耳にしています。都市型洪水、ビル風、液状化、長周期地震動等々。人間が、便利に、快適に、と願ってやってきたことが一斉に牙をむいて襲い掛かってきている感じです。これが、梅棹忠夫氏の言うところの「人間が知的生命体である以上、破滅への道を歩み続ける」ということなののでしょうか。

原発事故に因る被曝を心配する人たちに対して、「正しい知識を持って正しく怖がる必要が有る」、と語った専門家が居ました。低線量被曝に関しては専門家の意見が様々に分かれている現状では何が正しいのか判りません。広島と長崎の放影研が 66 年前の原爆投下後の“黒い雨”に関する 1 万人以上のデータを解析することなく放置していたことが問題になっています。解析されていたら、今回、役に立ったかもしれない、と思うと憤りを感じます。ある専門家は、「煙草も、車もそれなりに危険が有ることは事実だが、喫煙するかしないか、運転するかしないかは個人の判断に委ねられている。それと同様、どの程度の放射線量を許容するかは個人の判断だ」、と言っていました、納得できません。

事故後、南相馬市立総合病院の非常勤医師が、内部被ばく検査の為、学校給食の検査を提案する丁重なメールを市長あてに送った所、副市長から「市長に対して失礼極まりない。ご自身の立場を踏まえた行動を」という恫喝にも似た批判メールが返信されてきたと言います(朝日新聞連載 プロメテウスの罫 12/18)。

国や行政は何を守りたいのでしょうか。

原子力安全委員会でも、地震、津波、活断層の専門家の中には、以前から原発建設の危険を訴えていた人たちも少なくなかったようですが、その意見は生かされませんでした。どのデータを採用するのか、どの計算式を使うのかで結果は大きく変わったと言います。その時、いつも優先されたのが経済性と効率と驚くほど楽観的な希望的観測でした。

自然を正しく恐れ、人間が想定できることは限られていることを謙虚に認識していたら、原発を作ることなど怖くてとても出来なかったに違いありません。

現段階では、原発と人間の共存は無理だと思えてなりません。そんな原発を輸出するのも即刻辞めて欲しいのです。

連日のように、九州電力の隠蔽と捏造の体質と厚顔振りが報道されています。私が宮崎県に住んでいるから九電のニュースに触れる機会が多いのであって、きっと他の電力会社でも似たり寄ったりのことが行われているに違いありません。

「後に、悪と評される行為も、最初は善意から始まっていることが多い。人間は、最初から総てを見通すことはできないから。」という言葉をかエサルが残しているそうです。重い言葉だと思います。誰も、正しい事をしていると思っている時、自省を忘れがちです。

暗いニュースが多い中、嬉しい記事がありました。生分解性プラスチックの分解を早める酵素が、イネに付着する酵母やオオムギにつくカビに存在することが判り、量産化に成功した、というのです。通常は分解に数ヶ月かかるタイプの農業用シートが7日で分解できたと言います。一日も早く世の中のプラスチックの全てが生分解性プラスチックに変わって欲しいと心から切望します。

我家が綾町の住人になって一年が過ぎました。

早すぎる梅雨明けの後、晴天は三日と続かず、降らないまでも曇天が多く黴と闘う夏が過ぎ、秋の訪れとともに綾は一気に忙しくなりました。

九月の十五夜祭に始まり、秋分の日近くの、秋の社日講(農耕の神様をお見送りする集まりです)。来年三月の春の社日講(御迎え)の講守宿は我が家です。大変!!

十月、照葉大吊橋リニューアルの渡り初め、照葉樹林文化シンポジウム(ユネスコエコパークへの推薦が決まったので、関係者には力が入ります。)、スローフード祭り(ヨーロッパでワイングラスを首にかけてウォーキングやジョギングをしながら食事やワインを楽しむように、此処では、

焼酎の器を片手に、馬事公苑に出店された店をまわります。運動より、ひたすら食べることを楽しみます。)、味噌作り(町内地区毎に、割り当てられた日に加工所に集まり、大豆を蒸し、天然塩と混ぜ合わせ、麴が活動できる温度まで冷まし、麴と混ぜ潰して持ち帰り、自宅で天地返しをしながら来春まで常温発酵させます。勿論、塩以外は総て綾町産です。我が家は10kg仕込みました。)、第25回照葉樹林マラソン(我が家の傍の綾南川の土手がコースになっている為、庭からランナーと言葉を交わしながら応援しました。本格的に走る人、様々な仮装を凝らして楽しむ人、見ていて飽きませんでした。)

十一月、第30回綾競馬(岩手県からのチャグチャグ馬コが花を添えました。生憎の空模様でしたが、馬事公苑に行く途中、初めてアサギマダラに出会えました。)、総合文化祭、綾有機農業祭(JA綾の私の班の婦人部がダンスを披露)、自治公民館手作り文化祭(何故か、不器用な私が編み物を出品することになり、来年は理由を付けて逃げよう!と書いていましたが、公民館に二晩集まり、不出来ながらも初めての作品が出来上がると、図々しく、来年も参加しようなどと考えています。)、綾工芸まつり(染色、織物、ガラス、木工製品、陶芸などが所狭しと並びます。先日テレビで、日本一高価な木材は、綾産の榎だと言っていました。綾は岩盤質なので栄養が少なく成長が遅いため年輪が詰った良質の碁盤や将棋盤になるそうです。)

あの震災以来、サクラ、レンゲツツジ、ミヤマキリシマ、キツネノカミソリ、アマランダ、ヤッコソウ、ジャカラダ、コバノセンナ、コスモスなどの花便りにも、出かける気持ちにはなれないでしたが、綾での秋の忙しさに気持ちが動き、秋を探しに日南市、西都市、小林市に出かけました。新燃岳噴火の影響で通行止めの登山口も多く、安愚楽牧場関係の施設は閉鎖されていました。噴火、口蹄疫の影響の大きさを実感しました。樹齢200年のイロハモミジは見事でした。

仔犬だった雌犬の杏が初潮を迎え、交配するには未熟なため、目下大五郎とは隔離中です。夫と私も大五郎と杏の付き添いで別居中です。

冬の夜、皆既月蝕、ふたご座流星群と相次ぐ天体ショーを堪能しました。特に流星群は、次々に、大きくて明るい流れ星を見ることが出来、大満足でした。晴天の少ない日々の中、二晩とも少し前までの雲が晴れ、見事に満月の皆既月蝕と満天の星空を見ることが出来たことは何よりの幸せでした。

近くの土手で、念願のシバハギらしき草を見つけました。シバハギは絶滅が危惧されているタイワンツバメシジミの食草です。宮崎市周辺では時々観察されています。来年は私も、タイワンツバメシジミにも会えるかもしれません。

来年こそ穏やかな年になります様に!!

皆様、どうぞ良いお年を!!

(K. O.)



お知らせ

・総会および新年会のお知らせ

1月4日(水) 午前11時から 林宅にて

総会(今年度の事業・会計報告および来年度の事業計画等)終了後、一品持ち寄りの新年会を行います。万障お繰り合わせのうえ、ご参集ください。

・読者の声・投稿などお待ちしております。



くらしの学習会では、随時会員を募集しています。

活動会員 2000 円/年 購読会員 1000 円/年

振込先口座番号(郵便局) くらしの学習会 01610—5—21026

問い合わせ先 TEL/FAX 089—964—6956(林)

E-mail: kt-hayashi@nifty.com

編集後記

夫が近々定年を迎えるため、先日年金についての説明会に参加してきました。

本当に働けなくなった時、生活に窮することなく暮らせる確実な保証があれば、年金と税の一体化改革に反対する人はほとんどいないのではと思います。国の借金を後の世代に残さないためにも、働ける人は働き、まじめに税金を納めていきたいものです。明るい未来の夢が描ける世の中であってほしいなと思います。よいお年をお迎えください。(T・H)

2011年12月21日 (水)
愛媛新聞

東温市議会 「脱原発を」意見書可決

東温市議会は20日、国に「脱原発」政策の実行を求める意見書を賛成多数で可決した。
(9面に関連記事)
意見書は、東京電力福島第一原発事故に関

し「放射能汚染は広範囲にわたり、被災住民は生活再建の展望が描けず不安の中で暮らしている」と指摘。国への要望として、現在停止中の原子炉は事故の

収束と検証に基づく安全対策の完了を経て、地元住民の同意を得るまで再稼働しない▽事故の収束は放射性物質の放出抑制など、危険の封じ込めが十分に確

認されることが最低条件などとした。
また、「地元」は原発立地自治体のみでなく、半径50km圏内をめどに近隣自治体も含めて広く定義し、住民への説明や意見の反映を、実質的に保障するよう求めている。
提出先は衆、参両議

監査委員選任に同意

新議長安井氏 副は片山氏

東温市議会は12月定例会最終日の20日、11月の臨時議会で不信任決議され、今定例会初日に議案審議に入れず「議案を混乱させた責任を取る」としていた大西勉議長(無所属)が、玉乃井進副議長(同)とともに正副議長職の辞職願を提出、全会一致で許可され

片山氏は10票を得た。安井新議長は閉会后、投票結果を基に「(議会を)二分化していた構図は解消されたと見えるだろう」と述べた。市議会正常化に向け「議員全員で情報共有し話し合っていくことを心掛けた」と語った。

あいつで「重責を担う監査委員への選任同意に感謝したい」と話した。



安井 浩二(やすい かつじ) 松山商大卒。会社役員。議運委員長など歴任。当選2回。北野田。

片山 益男氏(かたや まさまさ) 松山東高卒。書道教室講師。産業建設委員長など歴任。当選2回。南方。

市議会

常任・特別委の構成を一部変更
〈東温市〉(20日・定例最終)一般会計補正予算3億5131万円(累計14.9億574万円、前年度同期比5.4%増)など議案8件を原案可決。原子

力発電所の新增設中止などを求める意見書を継続審査とし、政党助成金を中止し大震災復興に充てるよう求める意見書を否決、年金受給期間10年短縮などを求める請願書3件を不採択とした。公用車事故の損害賠償(18万、24万円)などに関する専決処分2件を受理した。

常任、特別委員会の構成を一部変更した。新たな正副委員長は次の皆々。
産業建設 三棟養博委員長▽議会運営 伊藤隆志委員長▽議会改革 丸山裕委員長、山内孝三副委員長▽市街地見直し・地域活性化等調査 平岡明雄副委員長

(中藤玲)

